



5. 癬痕性脱毛症 scarring alopecia

外傷，熱傷，放射線などによる癬痕形成の結果，毛包が不可逆的に破壊されて脱毛をきたしたものである（図 19.16）。DLE，剣創状強皮症などの疾患でも生じうる。治療には外科的再建を要する。

D. 爪甲の変化 disorders of nails

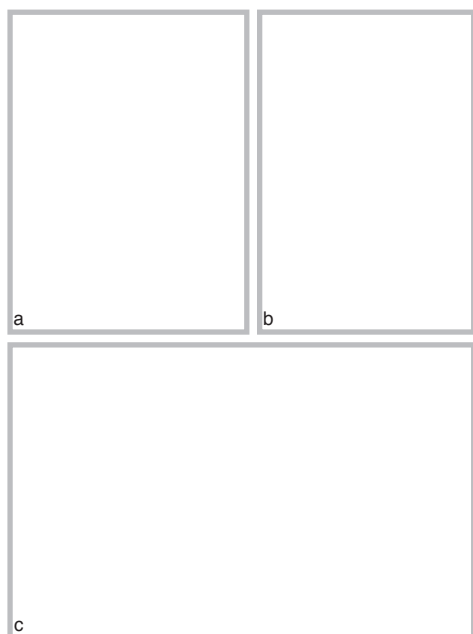


図 19.17 メラニン色（黒色）の爪 (melanonychia)
a: 爪の色に濃淡の差があり，爪の先端部が変形する。悪性黒色腫が疑われる。b: 25 歳女性。半年前より急速に発現し，病理組織学的には malignant melanoma *in situ* の像を呈した。c: 爪母の母斑細胞母斑。

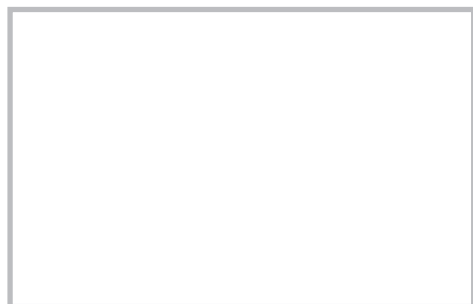


図 19.18 黄色の爪 (yellow nail)

a. 爪甲の色調の変化 color changes of nail plates

1. メラニン色（黒色）の爪 melanonychia

爪母メラノサイトの増加によるもの（母斑細胞母斑，炎症，圧迫によるメラノサイト活性化など），悪性黒色腫，Addison 病，薬剤性（フルオロウラシル，プレオマイシン，ヒドロキシウレアなど）などの原因が考えられる。爪外の皮膚（爪郭部など）まで黒色病変が及んでいる場合を Hutchinson 徴候^{ハッチンソン}といい，悪性黒色腫の可能性が高い（図 19.17）。爪下出血でも黒色調になるが，多くはダーモスコピーで鑑別可能である。また，細く縦走する数 mm 大の線状出血（splinter hemorrhage）は健康人でもみられるが，遺伝性出血性毛細血管拡張症（Osler 病^{オスラー}）や感染性心内膜炎で生じることがあり注意を要する。

2. 黄色の爪 yellow nail

爪の栄養障害や感染症，柑皮症や黄疸^{かんび}などによる。リンパ浮腫および慢性呼吸器疾患を合併したものを黄色爪症候群（yellow nail syndrome）といい，D-ペニシラミン，テトラサイクリンで誘発されることがある（図 19.18）。

3. 緑色の爪 green nail syndrome, chloronychia

緑膿菌の日和見感染^{つめはくせん}であり，爪白癬や爪カンジダ症を合併しやすい（図 19.19）。

4. 白色の爪 leukonychia

点状の白斑は，外傷などによって部分的に不全角化が起こるために生じるもので無害である（図 19.20）。ネフローゼ，肝

硬変などの低アルブミン血症による Muehrcke's nail^{ミュールケ}, 貧血, 強皮症, 糖尿病などの全身性疾患や砒素などの中毒, 白癬や爪甲剥離などによっても白色となる。

b. 爪の形態の異常 abnormal formations of nails

1. 時計皿爪^{つめ} nail clubbing ★

ばち状指 (clubbed finger), ヒポクラテス爪 (hippocratic nail) とも呼ばれる。爪甲が全体的に大きくなって時計ガラス状に丸く隆起し, 指趾末節が太鼓ばちのように肥大する (図 19.21)。指の末端の軟部組織にムチンが沈着するために生じる。慢性の心肺疾患 (肺気腫, 肺癌, 気管支拡張症, 先天性心疾患), 甲状腺機能亢進症, 炎症性腸疾患などで認められる。肥厚性皮膚骨膜炎 (18 章 p.343 参照) の一症状として家族性に出現することもある。

2. 匙状爪^{さじょうづめ} spoon nail ★

爪甲がスプーン状に陥凹し, 爪甲自体も薄くなるものである (図 19.22)。手の爪に多い。乳幼児では生理的にみられる。指先に力を掛ける仕事をしている健常人にもみられる。鉄欠乏性貧血や甲状腺疾患で生じるほか, 扁平苔癬, 乾癬, 真菌感染, 外傷, 化学物質などでもみられることがある。

3. 爪甲剥離症 onycholysis

爪甲が末梢側から剥離してくる状態をいい, 剥離をきたすが脱落に至ることはない。爪カンジダ症などの感染症, 外傷や慢性的刺激, マニキュア, 洗剤など爪甲部皮膚の炎症によるもの, 甲状腺機能亢進症や末梢循環障害, 薬剤などの全身的な原因によるものが存在する。



図 19.19 緑色の爪 (green nail syndrome)



図 19.20 白色の爪 (leukonychia)



図 19.21 時計皿爪 (nail clubbing)
爪甲全体が時計ガラス状に丸く隆起し, 指末節が太鼓ばち状に肥大する。